

自衛官志す若者等が陸自ヘリコプターに体験搭乗



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は11月28日（土）、アメリカ海兵隊キャンプ富士内にある富士場外離着陸場（御殿場市）において「UH-1Jヘリコプター体験搭乗」を行った。

これは、自衛隊に興味がある学生や入隊志望者等52人に、陸上自衛隊のヘリコプター体験搭乗を通して自衛隊の活動や自衛官という職業への理解を深めてもらおうと、東部方面ヘリコプター隊（立川駐屯地）の協力を得て実施したものだ。

参加者たちは、まず格納庫に駐機されているヘリコプターを前にパイロットから機体や搭乗時の注意事項などの説明を受けた。

その後、飛行準備が整うまで機体の座席に座って記念撮影をしたりパイロットに質問をするなど、普段見ることのできない陸上自衛隊の装備に興味津々の様子だった。

フライトは計7回行われ、搭乗時間を迎えた参加者は受付でドッグタグを受け取りと1番機と2番機に4人ずつ乗り込んだ。

この日は天候にも恵まれ、約15分の飛行中は御殿場市やススキの広がる富士山の裾野、遠くには駿河湾も一望でき、参加者は楽しそうに写真に収めていた。

また、機体を自由自在に操るパイロットの様子を見ることもでき、自衛隊の航空職種に就きたいという参加者は「自衛隊のヘリコプターは初めて乗りました。パイロットの技術がすごかったです」と感動していた。

静岡地本は、今後も自衛隊に興味のある若者にさまざまな体験を通して理解を深めてもらい、自衛官という仕事を選択肢のひとつとして考えてもらえるよう広報活動に努めていく。

地区防災訓練に協力



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は12月6日（日）、赤岳三区公民館（浜松市）で行われた地区防災訓練に、講師として自衛官を派遣した。

この防災訓練は、自治会役員から依頼があり実現したもの。浜北募集案内所の広報官である山田明1等陸曹、鈴木直玄2等陸曹、大石勇也3等空曹が参加し、コロナ禍の防災訓練ということで3密対策に気を配り、自治会側も参加者を大人に限定し、規模を縮小して行われた。

静岡地本は、大人限定の防災訓練ということで、災害時に現場のリーダーになる方知っておいてほしいO×問題を準備した。参加者は、簡単なながらも改めて問われると考えてしまう防災問題に、災害時の行動を再確認していた。

その後、「身近にある物を災害時に活用する」をテーマに、物干し竿と毛布を使った担架の作り方や、患者を搬送する際の注意点を説明。参加者にも実際に、搬送者と患者役に分かれて体験してもらった。

搬送役は、「こんなに簡単に担架が作れるんですね」、患者役は「進行方向を教えてもらったり、声をかけて進んでもらわないと、不安になりますね」など、それぞれの立場で感じたことを話していた。また、『自衛隊防災BOOK』に掲載されている、上着で担架を作る方法も紹介した。

最後は広報官が参加者に「災害が起こったら、私たち自衛隊が駆けつける前は、まず自助として地域住民同士の支え合いが大切です」と伝え、防災訓練を終えた。

静岡地本は、今後も地域住民と交流し、自衛隊に対する理解と信頼を深めていく。